

フィールドワークの思い出（大分県・福岡県）：道徳教育ゼミ

道徳教育研究室は、令和8（2026）年2月24日（火）から27日（金）にかけて、大分県・福岡県にてフィールドワークを実施（教育史研究室と合同実施）。

やわらかな早春の空気の中、私たちは「先人の生き方を活用した教育の展開」をテーマとしたフィールドワークに出発しました。行き先は大分と福岡。歴史に名を残す人物の足跡をたどりながら、先人の精神が現代の教育にどのように生かされ得るのかを、自らの目で確かめる旅です。

最初に訪れた(24日)のは、福沢諭吉記念館。中津の町に静かに佇む記念館には、近代日本を代表する思想家福沢諭吉の生涯を伝える資料が数多く展示されています。私たちは、幼少期の生活や学問への志を示す展示に足を止めながら、「独立自尊」という言葉の意味を改めて考えていました。国家や社会の発展は、一人ひとりが自立した精神を持つことから始まる――その思想が、激動の近代日本を支えた原動力であったことを、資料の一つひとつが語りかけてきます。展示を見終えたある学生は、「教科書で知っていた人物が、急に身近に感じられた」と語っていました。

翌日(25日)訪れたのが、古くから日本の信仰を支えてきた宇佐神宮です。広い参道を歩き、本殿で正式参拝を行うと、境内には凜とした空気が漂います。千年以上にわたり続く祈りの場に身を置くことで、私たちは日本人の精神文化の奥深さを実感しました。日常の喧騒から離れ、静かに手を合わせる時間は、先人たちが大切にしてきた「敬う心」や「感謝の心」を見つめ直すひとときとなりました。

午後に向かったのは、日田の町にある広瀬淡窓資料館です。ここは江戸時代の教育者広瀬淡窓が開いた私塾咸宜園の精神を今に伝える施設です。淡窓は、武士も町人も農民も区別せず学ぶことのできる教育を実践した人物として知られています。資料館の展示には、塾生たちの学習の様子や教育方針が紹介されており、「身分に関係なく学問を志す者を受け入れた」という学びの平等という思想が、すでに江戸時代の地方の私塾で実践されていたことに、多くの学生が驚きの表情を見せていた。

3日目(26日)は、淡窓の教育理念を学校教育の中で活かしている日田市立桂林小学校を訪問しました。校内には、咸宜園の精神を象徴する言葉が掲げられ、子供たちが地域の歴史と人物に誇りを持ちながら学んでいる様子が伝わってきます。校長先生からは、先人の思想を道徳教育や学校行事の中に取り入れている実践について説明があり、学生たちは熱心にメモを取っていました。歴史上の人物の理念が、単なる過去の出来事としてではなく、現代の教育活動の中で生き続けていることを実感した瞬間でした。

最終日(27日)には、福岡・博多の町を自由に散策しました。活気あふれる街並みを歩きながら、私たちはこれまで見聞きした歴史や文化について語り合いました。先人の志をたどる旅は、過去を学ぶだけでなく、これから自分たちがどのような教育者を目指すのかを考える機会にもなったようです。

歴史的な人物の足跡を訪ね、信仰の場に身を置き、そして教育の現場を見るといった3泊4日のフィールドワークは、歴史・文化・教育が互いに深く結びついていることを学生たちに強く印象づけました。先人の生き方は、決して遠い過去の物語ではない。それは今を生きる私たちに、どのように学び、どのように社会に尽くすのかを問いかけ続けています。今回のフィールドワークは、その問いに向き合う貴重な機会となりました。



〈福沢諭吉記念館〉



〈宇佐神宮〉



〈日田市立桂林小学校〉



〈楽しいひととき〉



〈博多散策〉